

日本社会科教育学会 第74回全国研究大会（沖縄大会）のご案内（二次案内） 対面開催

日本社会科教育学会会長 大澤 克美
全国研究大会実行委員長 白尾 裕志

今日の沖縄で続いている基地問題や貧困・格差等の課題は、日本の歴史や世界情勢にも関わる問題を含んでおり、沖縄の課題は、過去から現在に至る日本社会が抱えてきた課題でもあります。

沖縄の貧困問題をはじめとする社会的な諸課題の背景には、琉球王国（1479～1879）が薩摩の琉球侵攻（1609）以降、中国と日本の二重支配であった段階から、琉球処分（1879）を経て、「沖縄県」として日本に編入されて以降の歴史的、経済的な支配構造があり、戦前からは、サトウキビを中心としたモノカルチャー経済と労働力の流出（県外・国外）がありました。加えて、沖縄戦での甚大な被害、さらに戦後のアメリカ軍統治下における土地接収と、それによって生産手段を奪われた人々が、沖縄の再建と基地建設に向けた建設業を中心とする第二次産業やサービス業を中心とした第三次産業への移動していきました。これは、現在も沖縄の産業構造の特徴として現れていて、沖縄の日本復帰後の「沖縄振興開発計画」（現在は第六次）の予算配分に影響して、沖縄で暮らす人々の生活に結びついています。

今、沖縄は日本の安全保障の最前線として、南西諸島への自衛隊基地建設、辺野古への新基地建設に伴う地方自治を無視した埋め立てが強行されるなど沖縄の軍事的な負担はますます大きくなっています。また米軍関係者による事件事故も続いており、沖縄県民の平和的生存権は脅かされ続けています。

日本社会科教育学会を沖縄で開催する意義は、こうした課題について、子どもが主権者としてどう向き合うのかを沖縄で考えることにあります。そのため、本大会のテーマを「社会科教育は、現代の課題とどのように向き合い、何ができるか」としました。沖縄から社会科教育の未来を考えてみましょう。

1. 大会主題 社会科教育は、現代の課題とどのように向き合い、何ができるか。
2. 期 日 2024（令和6）年11月30日（土）・12月1日（日）
3. 会 場 琉球大学教育学部・人文社会科学部
4. 主 催 日本社会科教育学会 日本教育大学協会全国社会科部門
5. 後 援 沖縄県教育委員会・沖縄県小学校社会科教育研究会・沖縄県中学校社会科教育研究会

6. 日 程

第1日目 11月30日（土）

8:30	9:00	12:00	13:30	16:00	16:15	17:15	17:45	19:30
受付	自由研究発表	昼食 評議員会	シンポジウム @附属小体育館	休 憩	総会 104室	移 動	懇親会 ※大学生協北食堂	

第2日目 12月1日（日）

8:30	9:00	12:00	13:00	15:30
受付	自由研究発表	昼食	課題研究発表	

※発表時間は20分以内、質疑応答10分以内の計30分以内です。

各分科会の発表順・発表時間は次の通りです。発表者、司会者共に時間厳守にご協力ください。

- (1) 9:00～9:30
- (2) 9:30～10:00
- (3) 10:00～10:30
- (4) 10:30～11:00
- (5) 11:00～11:30
- (6) 11:30～12:00

自由研究発表 I-第1分科会

司会者 東洋大学 須賀 忠芳
帝京大学 野口 剛

- (1) 地域における継承的アーカイブを活用した「次世代の平和教育」の構築(3)
—京都府舞鶴市を事例として—
秋田大学 外池 智
- (2) 歴史の授業で博物館等の教育支援機能を活用する —生涯学習への橋架け—
北九州高等工業専門学校 海上 尚美
- (3) 「記憶」に基づくホロコースト学習再考
筑波大学大学院 畠 遼太郎
- (4) 博学連携の在り方と実物教材を活用した開発単位に関する考察
—小学校, 中学校における社会科授業実践を例として—
兵庫教育大学連合大学院・糸魚川市立糸魚川中学校 佐藤 優一
長岡市立豊田小学校 長橋 俊文
- (5) グローバル化時代における日韓歴史教育理論の比較教育史研究
—1980年代の『歴史教育論集』の分析をもとにして—
兵庫教育大学 福田 喜彦
- (6) 戦後80年, 今, 沖縄にどのように向き合うべきか
—教科等横断的な視点から考える沖縄—
帝京大学 古家 正暢

自由研究発表 I-第2分科会

司会者 国立教育政策研究所 磯山 恭子
茨城大学 木村 勝彦

- (1) 金融消費者教育の実践に関する教員の意識と課題
—金融消費者教育に関わる教員アンケートの結果・分析—
信州大学 田村 徳至
- (2) 地方における金融の在り方の追求を目指す社会科授業
—地域金融機関とフィンテックに着目して—
上越教育大学附属中学校 仙田 健一
- (3) どのようにしてゲームの「雰囲気」を学びにつなげるか?

－「貿易ゲーム」のディブリーフィングを通じて－

武庫川女子大学 大山 正博
兵庫県立加古川東高等学校 新 友一郎

- (4) 中学校公民的分野における「認識的不正義の是正をめざす社会科」授業デザイン
－子どもの学びに基づいた授業構成と教師の働きかけに注目して－

田中 峻斗 広島大学大学院・日本学術振興会特別研究員
宮崎市立宮崎中学校 鬼塚 拓

- (5) 中学校社会科公民的分野における経済的社会化を目指して
－ゲーミング・シミュレーション教材「地方財政体験ゲーム」の開発－

上越教育大学大学院 小林 龍人

- (6) 法的スキルを用いた法学習の単元開発 －中学校社会科を事例として－

弘前大学 池田 泰弘

自由研究発表 I - 第 3 分科会

司会者 東北学院大学 坪田 益美
宮崎大学 吉村 功太郎

- (1) 「世界平和と人類の福祉の増大」の指導の工夫
－主権者として主体的に課題を解決しようとする生徒の育成VI－

江東区立第三砂町中学校 仲村 秀樹
中央区晴海西中学校 種藤 博
中野区立第二中学校 古田 一博
前八王子市立上柚木中学校 源田 洋二郎

- (2) 中学校社会科公民教科書における最近の動向－「人権と日本国憲法」に関する記述を中心に－

越谷市教育センター 中台 正弘

- (3) 中学校公民的分野において公正な判断力の育成をめざす授業開発と実践
－公園の廃止を巡る合意形成過程の事例から－

横須賀市立久里浜中学校 菊池 徹

- (4) 社会科における「個に応じた学び」の理論と方法
－ワシントン州シアトルの現地調査を通して－

筑波大学 早瀬 博典

- (5) 論争問題の熟議経験は、学習者の議論観をいかに変容させるか
－生徒への質問紙・聞き取り調査を通じた探索的研究－

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校・筑波大学大学院 植原 督詞

- (6) 親の行動についての子どもの認識と意識との関係性 －主権者教育に関する調査データから－

白鷗大学 市島 宗典

自由研究発表 I-第 4 分科会

司会者 東京学芸大学 川崎 誠司
鹿児島大学 溝口 和宏

- (1) 社会科授業に表れた AI 技術の発達と人間の在り方に関する小学生の意識
ー自動運転車の事故の責任をめぐる法構想学習を通してー

香川大学 鈴木 正行

- (2) 小学校社会科を/で哲学する授業 ー哲学対話の可能性と課題ー

信州大学 松島 恒熙

- (3) 生成 AI を活用した小学校社会科授業開発

広島文化学園大学 二階堂 年恵
広島弁護士会 西本 聖史
福山市立水呑小学校 川上 秀和

- (4) ジェンダーを視点とした小学校社会科系教科における授業実践
ーアンコンシャス・バイアスに着目してー

福井大学連合教職大学院 酒井 夏瑞

- (5) 模擬裁判を通じた人権学習 ー小学生の発達段階をふまえてー

名古屋学院大学 菊池 八穂子

- (6) 教科教育と教科専門の協働による初等社会科教育内容の創出

文教大学 伊藤 裕康
愛知教育大学 伊藤 貴啓

自由研究発表 I-第 5 分科会

司会者 愛知教育大学 土屋 武志
東京学芸大学 日高 智彦

- (1) 逆向き設計をふまえた「歴史総合」概念型学習カリキュラムの開発 (1)
ー歴史総合で獲得したい概念とは何かー

京都橘大学/京都教育大学大学院連合教職実践研究科 児玉 祥一
中央大学附属横浜中学校・高等学校 柴 泰登
鎌倉学園中学校・高等学校 神田 基成

- (2) 逆向き設計をふまえた「歴史総合」概念型学習カリキュラムの開発 (2)
ー近代化と大衆化の単元構成と学習デザインー

中央大学附属横浜中学校・高等学校 柴 泰登
鎌倉学園中学校・高等学校 神田 基成

- (3) 逆向き設計をふまえた「歴史総合」概念型学習カリキュラムの開発 (3)
ーグローバル化の単元構成と学習デザインー

立教新座中学校・高等学校 荒井 雅子
京都橘大学/京都教育大学大学院連合教職実践研究科 児玉 祥一

(4) 歴史をどの程度私ごとに出来たのかー大衆化における自校史の視点を取り入れた教材開発ー
立教新座中学校・高等学校 荒井 雅子

(5) 博学連携により「自立した学習者」の育成を目指す中学校社会科の授業開発
ー静岡市歴史博物館との連携による歴史的分野の単元「近世の日本」の実践を通してー
静岡市立城内中学校 金澤 翔平

(6) 教育改革の中における地歴・公民科改革を考える
ー地歴・公民科を学ぶ意味の視点からー
筑波大学 篠塚 明彦

自由研究発表 I-第 6 分科会

司会者 立命館大学 角田 将士
成蹊大学 二井 正浩

(1) 原始人日記を中学生が書くー主体的に歴史認識を紡ぐ「歴史日記」の授業実践ー
新潟市立小合中学校 小林 朗

(2) 高校「歴史総合」と中学「歴史」との効果的な接続
札幌大学 兼間 昌智

(3) 長期持続的な視点からみた世界史学習の研究ーナゴルノ・カラバフ紛争を事例にー
筑波大学大学院 今村 福太

(4) 高校生による教科書叙述の批判的検討
ー歴史教育の現場で「歴史学と歴史教育の関係」を考えるー
岩手大学 宮崎 嵩啓

(5) カナダにおける「歴史的不正義」の指導と評価の一体化
ーカードを用いた単元「BC州における中国系カナダ人の遺産」の場合ー
北海道教育大学 玉井 慎也
太宰府市立太宰府西中学校 高松 尚平

(6) 現在の戦争を自分事として多面的・多角的に考察する中等社会科教育内容開発
ー単元「日本が攻められないためにはどうすればよいか」の場合ー
西九州大学 松井 克行

自由研究発表 I-第 7 分科会

司会者 宇都宮大学 溜池 善裕
福島大学 初澤 敏生

- (1) 小学校社会科における防災教育の授業実践 —第5学年南海沖地震に備えよう—
香川県坂出市立金山小学校 河野 富男
- (2) 「ネイチャーポジティブ」に向けた社会科教育実践の試案
—地域の伝統文化からのアプローチ—
琉球大学教育学部附属小学校 下地 治人
- (3) 小学校社会科エネルギー教育における論争問題と合意形成に関する一考察
皇學館大学 萩原 浩司
- (4) 小学校社会科における第4のインフラとしての通信の教材化
—第4学年内容項目の再構成と授業実践—
横浜国立大学教育学部附属横浜小学校 兼田 和明
- (5) 当事者性を育むエージェンシーの視点を取り入れた社会科学習
—ふるさと納税（6年生）の授業を通して—
筑波大学附属小学校 粕谷 昌良
- (6) 2018年版カンボジア初等社会科カリキュラムの構成
—国民意識形成の社会科から何がどのように変化するの—
桃山学院教育大学 守谷 富士彦

自由研究発表 I - 第8分科会

司会者 北九州市立板櫃中学校 岩野 清美
東京学芸大学 渡部 竜也

- (1) 研究者と実践家との関係性の構築の可能性と課題
東京学芸大学 渡部 竜也
北海道教育大学札幌校 星 瑞希
- (2) 神話・無知・迷信に向き合う社会科 —近代的な価値観を再考する授業—
開智所沢中等教育学校 齊藤 征俊
東京学芸大学名誉教授 坂井 俊樹
八千代松蔭中学校・高等学校 飯塚 真吾
伊勢原市立竹園小学校 井山 貴代
開智国際大学教育学部 大木 匡尚
千葉大学教育学部附属小学校 中谷 佳子
東京学芸大学附属世田谷小学校 宮田 浩行
- (3) 社会科教育における一枚ポートフォリオ（OPPA）の活用に関する現状と課題
—マイクロな視点（小単元）による評価の限界性—
大阪教育大学教職大学院 岡本 慎平
富田林市立金剛中学校 中澤 尚紀
- (4) 「総合的な探究の時間」におけるアントレプレナーシップ教育の実践
—ルーブリック評価からイノベーション創発まで—

山形大学 加藤 知愛
山形大学 小野寺 忠司

(5) 集団的変容を評価し合う社会科学習の実践

山口大学教育学部附属山口小学校 田島 大輔

(6) 社会科教育における「評価」研究に関する基礎的分析

四日市市立富洲原中学校・兵庫教育大学連合大学院 松村 謙一
鳴門教育大学 井上 奈穂

自由研究発表 I-第 9 分科会

司会者 早稲田大学 池 俊介
宮城教育大学 吉田 剛

(1) 中学校社会科地理的分野教科書記載の「景観写真の読み取り」コラムの設問分析とその考察
ー3社の教科書を対象にー

神戸学院大学 非常勤 久保 哲成

(2) 社会科地理的分野における観光学習 ーオーバーツーリズムをどのように学ぶかー

京都文教大学 澤 達大

(3) 中学校地理的分野のカリキュラムの現状と課題

ー持続可能な国土像の探究及び地方創生・まちづくりの視点からの考察ー

千葉大学大学院・お茶の水女子大学附属中学校 渡邊 智紀

(4) ソーシャル&エモーショナルラーニング (SEL) の視点を取り入れた社会科授業の実践

ー地理的分野の授業実践報告ー

東京学芸大学附属世田谷中学校 金城 和秀
玉川大学 高岡 麻美
東京学芸大学附属世田谷中学校 村木 龍太郎

(5) 中学校社会科 ESD の授業づくりー変容的学習による価値観・態度の変容を目指してー

千葉大学大学院 橋本 涼太

(6) 地理的探究の役割ー香港中学校地理教育カリキュラム 2011 年版の再分析ー

宮城教育大学 吉田 剛

自由研究発表 I-第 10 分科会

司会者 名古屋学院大学 國原 幸一朗
龍谷大学 中本 和彦

(1) 若手教師による「地理総合」「歴史総合」「公共」の授業実践プロセスの事例研究

ー「教師の個別最適な学び」の充実に向けてー

筑波大学 YANG JAYEON

お茶の水女子大学 大脇 和志
茨城大学 金久保 響子

(2) 社会科若手教師は省察的实践によってどう成長していくのか

至学館大学 出井 伸宏

(3) 総合的な学習の時間の中で培われる社会科の学力

前長野県伊那市立伊那小学校 田畑 浩人

(4) 社会科授業におけるバーチャル技術の活用に向けた一考察

熊本学園大学 木下 祥一

(5) 「集合知」を創出する社会科学学習に向けた予備的考察 ー教師と学習者による学習内容の共創ー

大阪産業大学 宅島 大堯

(6) 当事者研究としての社会科教育研究 ー大学研究者の抱える苦勞の言語化と理論化ー

宮崎大学 藤本 将人
宮崎市立宮崎中学校 鬼塚 拓

昼食・休憩

12:00-13:30

※受付で、係に参加証を示して弁当を受け取ってください。

評議員会

12:00-13:30

※文系総合研究棟 305 教室にて

社会科は平和形成にどのように貢献できるか

【趣旨】

ロシアとウクライナの戦争、イスラエル軍によるパレスチナ人への虐殺など、戦争と平和をめぐる課題は深刻さを増しています。子どもたちも日々ニュース等で「戦争」に触れる日常です。そんな中、世界中では戦争を止めるため多くの人が声を上げていますが、戦争・虐殺が続く現実には、「なぜ戦争を止められないのか」という疑問が教室でも聞かれます。

日本においても「台湾有事」が叫ばれ、「最も厳しく複雑な安全保障環境」として、南西諸島への自衛隊配備が進められています。このように戦争と平和をめぐる課題は、社会科教育が向き合わなければならない課題であり、今一度社会科教育が平和形成にどのように貢献できるのかが問われているといえます。

シンポジウムでは、この問いに対し、これまでの沖縄の社会科教育・平和教育実践をふりかえり、実践の中で何を目指してきたのかを、登壇者の先生方のご提案をもとに検討していきます。

コーディネーター：琉球大学 山口 剛史
琉球大学 鳥山 淳

シンポジスト・テーマ

- (1) 沖縄の平和教育史 — 沖縄県歴史教育者協議会の動きを中心に —
沖縄県立美術館・博物館長 里井 洋一
- (2) 米軍基地の成り立ちを学ぶための沖縄戦学習
— 浦添市小湾の「日常」に着目した追体験型授業を通して —
琉球大学 北上田 源
- (3) ガザ地区と沖縄 — 「日常」からガザと沖縄の人権を診る —
那覇市立神原中学校 伊良波 剛

休憩

16:00-16:15

総会

16:15-17:15

※104教室

自由研究発表Ⅱ-第1分科会

司会者 宇都宮大学 熊田 禎介
明治学院大学 佐藤 公

- (1) 満洲国における中国人児童に対する郷土教育
－1932年から1937年までの伝統文化の活用を中心として－
筑波大学大学院 松 婷
- (2) 世紀転換期オーストラリアにおける統合社会科カリキュラムの成立
－分化カリキュラム批判とアメリカ新社会科の影響に着目して－
福山大学 両角 遼平
- (3) 社会科成立期のカリキュラム論の思想的特質
－重松鷹泰と勝田守一の学問的アプローチによる心理的要因の分析をとおして－
鹿児島大学 大野木 俊文
- (4) 終戦直後のIFEL(占領期教育指導者講習)と川口プランとの関連について
－新教育、文部省モデルスクール、社会科を中心に－
筑波大学大学院 中山 正則
- (5) 占領下沖縄の中学校社会科歴史 ー仲原善忠『琉球の歴史』を手がかりにー
琉球大学博物館 萩原 真美
- (6) 森田俊男における沖縄論・沖縄教育論の展開
－「地域に根ざす国民教育」論との関係を中心に－
京都橘大学 非常勤 和井田 祐司

自由研究発表Ⅱ-第2分科会

司会者 上越教育大学 中平 一義
大阪教育大学 峯 明秀

- (1) 社会問題を扱うことに向き合う教員養成プログラムの実践
－「水俣病」をどう教えるかを事例として－
鹿児島大学 岩崎 圭祐
- (2) 社会科教師は授業づくりに際して如何に実践的知識を働かせるのか
－授業場面の省察に着目して－
筑波大学大学院 Xie Cong

- (3) 大学生と学ぶ四日市公害訴訟 — 教職課程における人権学習としての試み—
同志社大学・京都教育大連合教職大学院 森口 洋一
- (4) 教員養成課程における社会科観の捉え直し
—一枚ポートフォリオによるリフレクションの分析を通して—
創価大学 津山 直樹
- (5) 小学校教師志望学生における学習評価の力量形成に関する研究
—「社会（初等）」によるグループ・モデレーションの演習を通して—
東京未来大学 高橋 純一
- (6) 社会参加と教師の専門的能力
—『プロジェクトシティズン研究プログラム 2024 レポート』の分析—
上越教育大学 中平 一義
北海道教育大学函館校 野寄 雄太

自由研究発表Ⅱ-第3分科会

- 司会者 島根大学 宇都宮 明子
国士舘大学 加藤 公明
- (1) 韓国とドイツの「加害」の過去の取り組みとその方向性に関する考察
—両国の歴史教育の視点から—
筑波大学 國分 麻里
島根大学 宇都宮 明子
- (2) 日本における排外主義的な移民政策とシティズンシップ形成—在日コリアンを中心として—
神奈川県立新羽高等学校 吉田 友明
- (3) 歴史論争問題における責任と補償のあり方を議論する授業構成の原理と方法
—「倫理的判断」に着目した授業の開発を通して—
千葉県立東金高等学校 山村 向志
- (4) 修復的正義に基づく平和構築能力の育成原理 —The Road to Peace: A Teaching Guide on
Local and Global Transitional Justice の分析を通して—
就実大学 長田 健一
- (5) 偽情報による社会の分断—小・中学校社会科と高等学校公民科における分析—
愛知教育大学 保立 雅紀
- (6) 授業者を育てる—教職科目「地歴科指導法」の実践報告—
国士舘大学 加藤 公明

自由研究発表Ⅱ-第4分科会

- 司会者 山形大学 江間 史明
北海道教育大学 坂井 誠亮

- (1) 個の追究を導く導入の工夫と協働的な学びに繋げる個の追究
 - 「第二次世界大戦と日本の敗戦」の授業を通して-
 北海道教育大学 坂井 誠亮
- (2) 価値観の変容を目指す歴史授業の開発
 ～小学校社会科第6学年「平安時代の人々」の実践を通して～
 小千谷市立小千谷小学校／上越教育大学大学院 井上 大輔
- (3) 小学校の平和教育試論
 - 「善良な家族が戦地で人を殺めることができたのはなぜか」の学習を通して-
 浦安市立明海小学校 板垣 雅則
- (4) 食文化を教材とした国際理解を育むための授業実践 - 麺を啜ることについての対話を通して-
 静岡大学教職大学院 岩本 拓磨
- (5) 国際社会の問題を自分ごととして捉える小学校社会科学習の研究
 - パレスチナ紛争を事例として-
 四天王寺大学 西口 卓磨
- (6) 「見方・考え方を働かせる」小学校6学年社会科の単元デザイン
 - 「他者に対する公正さ」と「伝統」を中核概念として-
 山形大学 江間 史明

自由研究発表Ⅱ-第5分科会

司会者 高千穂大学 鈴木 隆弘
 福井大学 橋本 康弘

- (1) 「性の多様性」を尊重できる市民の育成を目指した授業開発
 愛媛大学教職大学院 柚山 由紀野
- (2) 「高校生の Agency がつなぐ Sharing Community」の探究
 - 公共の教材としての「十代の agency」研究-
 東京経済大学 大滝 修
- (3) 高等学校「公民科」の教育実践をとおり、道徳教育を検討する
 北海商科大学 山口 晴敬
- (4) 人生設計を視座にした社会科・公民科カリキュラムの構築 (2) - 単元「結婚・婚姻」の実践-
 福井大学 橋本 康弘
 宮崎大学 吉村 功太郎
 秋田大学 加納 隆徳
 亜細亜大学 三浦 朋子
 東京学芸大学 渡部 竜也
 国立教育政策研究所 磯山 恭子

- (5) 弁護士が考える公共教科書での法教育内容の課題 ―校則を題材とした取組を取り上げて―
 大阪弁護士会・大阪大学大学院 飯田 亮真
 東京弁護士会・兵庫教育大学 神内 聡
- (6) 労働法教育の再検討―2000年代以降の変遷の視点から―
 高千穂大学 鈴木 隆弘

自由研究発表Ⅱ-第6分科会

司会者 広島大学 永田 忠道
 北海道教育大学 前田 輪音

- (1) 高校における公民科教育の現状 ―指導者アンケートを通して―
 日本大学 奥田 智
- (2) 熟議による合意のプロセスに着目した授業研究 ―生徒へのインタビューに基づいて―
 上越教育大学大学院・沖縄県立八重山農林高等学校 米田 美由紀
- (3) 高等学校公民科における協働学習がキャリア発達に及ぼす効果の検証
 上越教育大学大学院 高橋 洋樹
 上越教育大学大学院 榊原 範久
- (4) 教室における陰謀論への対抗―M. Caulfield& S. Wineburg 『Verified』を手掛かりに―
 東京学芸大学大学院 老沼 幸一
- (5) 政治的教養を高める高等学校公民科における授業開発
 千葉大学大学院 小澤 舜
- (6) 「公共」における地域の社会課題 ―北海道の社会課題の選定過程から―
 北海道教育大学 前田 輪音

自由研究発表Ⅱ-第7分科会

司会者 筑波大学 金 玆辰
 横浜国立大学 鈴木 允

- (1) 社会系教科におけるESD研究の展開 ―文献および科研費を対象にした調査―
 千葉大学 阪上 弘彬
- (2) 企業のESGの取り組みから考える小学校社会科の環境教育 ―「損して得取れ」精神から学ぶ―
 津市立南が丘小学校 丸山 拓弥
- (3) 生成AIを使用した学習が生徒の認識におよぼす影響 ―中学校地理的分野の事例を通して―
 千葉大学教育学部附属中学校 五十嵐 辰博
- (4) 地理総合における難民問題の授業

－「社会的分断」における多様な立場の具体的理解を目指して－

横浜市立横浜商業高等学校 眞所 佳代

(5) 高等学校地理教育における地球的課題の扱いの変遷 －学習指導要領を中心とした分析－

千葉大学大学院 遠藤 崇

(6) オーストラリアの地理カリキュラムにおける汎用的能力と力強い地理的知識の関係

筑波大学 金 玟辰

自由研究発表Ⅱ-第8分科会

司会者 玉川大学 梅田 比奈子

弘前大学 小瑤 史朗

(1) 小学校における変革型サービスラーニングのカリキュラム開発

－Westheimerらの「慈善」と「変革」の議論を手がかりとして－

東京都世田谷区立武蔵丘小学校 松本 武

(2) 地域の活性化の事例から政治の働きを捉える小学校社会科学習

－人口増加自治体（北海道東川町）の取組を事例として－

新宿区教育委員会事務局 辻 慎二

旭川市立近文小学校 松浦 達也

旭川市立朝日小学校 井須 哲朗

(3) グローバル化する社会を学ぶ小学校社会科学習

－外国人住民と共に取り組む防災活動を基に、震災により変化した防災活動の働きを考える－

豊島区教育委員会 生沼 夏郎

仙台市立鶴巻小学校 岡崎 大地

(4) グローバル化した社会を学ぶ小学校社会科学習

－外国の支援を視点に入れた復旧・復興の取組から、国の政治の働きを考える－

越谷市立蒲生南小学校 岡本 諭

国土舘大学 秋田 博昭

川口市教育委員会 堀 祥子

(5) こどもの自然体験に関する実態調査

－横浜市新治市民の森での自然体験の現状から探る森林の学習の在り方－

横浜創英大学 根本 徹

IPU・環太平洋大学 木野 正一郎

群馬医療福祉大学 田中 浩之

自由研究発表Ⅱ-第9分科会

司会者 東京学芸大学附属竹早小学校 上野 敬弘

愛知教育大学 真島 聖子

- (1) 「ともに、生きる。江戸川区」の実現へ向けた授業改善 —生活科と中学年社会科を中心に—
江戸川区立大杉第二小学校 柳沼 麻美
- (2) 対話的な学びによる社会科授業で育つ子どもの姿 —遊びの境地をつくる授業づくりを通して—
東京学芸大学附属竹早小学校 恒川 徹
- (3) 日本の技術を生かした「ものづくり」に関するカリキュラム研究
=親・子・孫 三代にわたるカレールウづくり=
前立正大学 石橋 昌雄
東京都板橋区立板橋第五小学校 西谷 秀幸
東京都葛飾区立東金町小学校 成田 香穂理
東京都大田区立入新井第二小学校 八千代 歩
東京都小金井市立小金井第一小学校 丸野 陽子
- (4) 「代理発問」による学びの深化—主体的な学びを促進する発問の役割と実践—
関西学院初等部 宗實 直樹
- (5) 小学校社会科におけるゲーミフィケーションを活用した授業開発研究
—「遊び」と「疑似体験」に焦点を当てて—
東京学芸大学附属竹早小学校 上野 敬弘
- (6) 子どもの意見表明・社会参加における他者との協働
—小学校社会科第4学年「港をひらく」の実践を例に—
愛知教育大学・筑波大学大学院 真島 聖子
愛知教育大学附属名古屋小学校 松本 卓也

自由研究発表Ⅱ-第10分科会

司会者 植草学園大学 梅澤 真一
横浜国立大学 重松 克也

- (1) 子どもの地域像形成に着眼した小学校社会科の授業構想
—第3学年の「わたしたちの秋田市」を題材に—
秋田大学教職大学院 高橋 想奈
- (2) 日本の産業の近代化を実感できる小学校社会科歴史学習
—製糸・紡績業の動力源となるエネルギーに着目して—
広島修道大学 永田 成文
四日市市文化課 石田 智洋
三重大学名誉教授 山根 栄次
皇學館大学 萩原 浩司
- (3) 子どもが主体となる平和教育実践の一考察
—子どもの「主観」に着目して—
南城市立馬天小学校 米須 清貴

(4) 平和を問い直し、平和創造へ向かう児童の育成を目指す小学校社会科授業開発

ー核兵器禁止条約を題材にー

上越教育大学教職大学院・三条市立栄中央小学校 阿部 秀司

(5) 歴史系外部人材を活用した「歴史の教訓」を扱う授業の開発・実践

ー単元「今、江戸時代のリサイクルの知恵は使えるのか？」の場合ー

愛知教育大学大学院 中村 賢治

(6) 社会的レリバンスを保障する小学校古代史学習

ー第6学年単元「古墳はだれのもの？」の単元構想を通してー

岡山理科大学 紙田 路子

自由研究発表Ⅱ-第11分科会

司会者 東洋大学 栗原 久

昭和女子大学 升野 伸子

(1) 探究学習はエージェンシーの発揮につながるのか

ーマイノリティの困難さの解決を目指す高校公民学習分析からー

上越教育大学大学院・埼玉県立越ヶ谷高等学校 山田 一貴

(2) 政治意識の変化から考察するこれからの政治教育について

ー7000人規模の政治意識調査の世代別分析からー

上宮高等学校 田中 智和

(3) 主権者教育としての”声を聴き、声を上げる”授業実践

ー高校生による沖縄でのインタビュー調査と新聞投書を通じてー

東京都立新宿山吹高等学校 杉浦 光紀

(4) 高等学校社会科における探究型教科学習の授業モデル構築

ー生徒の学びに着目してー

八王子学園八王子高等学校 渡邊 大介

八王子学園八王子高等学校 長谷川 陽介

八王子学園八王子高等学校 金井 太一

八王子学園八王子高等学校 波平 慎太郎

(5) 社会科教育研究は再現可能性にどう向き合うべきか

ー心理学における「再現性の危機」問題を参考にー

東洋大学 栗原 久

(6) 教育学と国際関係学の接点領域の「空白」について

ー国際平和の探究のためのカリキュラム開発を通じてー

立命館大学 国際地域研究所 野島 大輔

昼食

12:00-13:00

※受付で、係に参加証を示して弁当を受け取ってください。

課題研究Ⅰ 社会科教育は現代社会の構造的差別・暴力とどう向き合うか

〔趣旨〕大会テーマである「社会科教育は、現代の課題とどのように向き合い、何ができるか」の具体化していくうえで、現代の課題として戦争（直接的暴力）、そして自治権・生存権を侵害する構造的暴力にも目を向ける必要があります。そのことで、「平和が大事」とか「歴史的の教訓は何か」で終わることなく、学習者が平和をつくる力として、歴史の教訓の活かし方、具体的な政策立案能力や平和創造に向けた実践のあり方などを学習者が考え合うための学びの在り方を考えていきたいと思えます。

コーディネーター 沖縄県立美術館・博物館長 里井 洋一
琉球大学 池上 大祐

報告

(1) 沖縄戦から戦争への加担・協力について考える教育実践

—沖縄戦から「平和のつくり方」を構想する—

琉球大学 山口 剛史

(2) 日米安保条約を政治選択の俎上に載せる

—大阪の高校生を対象とした在沖米軍基地学習に焦点を合わせて—

大阪暁光高校 和井田 祐司

課題研究Ⅱ 地域との連携・協働を通じた社会科授業の創造

〔趣旨〕グローバル化が進んだ現在であっても、子どもにとって身近な地域を学習対象とし、地域の史跡/人材/資料など地域資源を教材化し、子どもが具体的に社会についての認識を深めていくことができるようにすることは社会科教育の原点です。しかしながら、各地で進む都市化や人口流動化にともない、従来と同様に学校を拠点とした形で地域から学ぶことは難しくなりつつあります。今回は、沖縄県内で地域と連携・協働を進めながら地域学習、特に沖縄戦に焦点を当てた授業実践に取り組まれてきた先生方とともに、地域学習の現状と、今後の地域や関係機関との連携・協働のあり方について考えてみたいと思えます。

コーディネーター 琉球大学 北上田 源
秋田大学 外池 智

報告

(1) 教員による「地域に根ざした」授業づくりを支える教育行政の取り組み

—沖縄県西原町・南風原町における平和教育実施体制に着目して—

琉球大学 北上田 源

(2) 地域との連携・協働を通じた社会授業の創造

—主体的に社会に関わろうとする児童育成のためのカリキュラムを通して—

南風原町立南風原小学校 屋良 真弓

(3) 地域を教材とした教育実践 —平和学習の取り組みを通して—

西原町立西原東中学校 森岡 稔

課題研究Ⅲ 社会科における ICT 活用と教育 DX をどのようにとらえるか

〔趣旨〕コロナ禍の2020年度からの「一人一台端末」の配布に始まり、中教審答申『令和の日本型学校教育』（2021年）以降、「ICTを活用した個別最適な学び」及び「協働的な学び」が、学校に求められる過程に

において ICT 活用が加速し定着しつつあり、多様な学習支援ソフトも開発される中で授業の形態も変化しつつある。こうした動きはやがて、組織のあり方の変化につながる教育 DX になることを見越した時に、これまでの教育から何が変わろうとしており、何を教育実践の成果として、継承していくべきことなのかについて考えていきたいと思います。

コーディネーター 琉球大学 白尾 裕志
北海道教育大学 前田 賢次

報告

(1) GIGA スクール下の授業の画一化と貧困化に抗して

愛知教育大学名誉教授 子安 潤

(2) 教育の ICT 化と学ぶ主体の変容

—社会認識の形成にとって ICT 化はどのような意味を持つか—

横浜市立大学名誉教授 中西 新太郎

課題研究Ⅳ 社会科と他教科との関連を図った単元開発をどのようにするか

〔趣旨〕児童・生徒には、急速に変化する社会に積極的に向き合い、他者と協働して社会に見られる課題を解決したり、様々な情報を精査し再構成することで新たな価値を創造したりすることが求められています。前回大会の課題研究では、各教科・分野・科目等相互の関連を図った社会科の学習指導を充実させることの重要性を確認しました。こうした検討結果を受け、今回は、社会科を中心にして各教科等相互の関連を図った単元での学習の充実に注目します。公民としての資質・能力を児童・生徒に確実に育む、社会科と他教科との関連を図った単元開発のあり方について、具体的な事例を踏まえ、議論を深めていきたいと思います。

コーディネーター 明治学院大学 佐藤 公
国立教育政策研究所 磯山 恭子

報告

(1) 小学校社会科と他教科との関連を図った単元開発

—各教科等の見方・考え方を働かせたカリキュラム・マネジメントを通じて—

札幌市立山鼻小学校 佐野 浩志

(2) 中学校社会科と他教科との関連を図った単元開発

—生物多様性を考える視点から公民的分野と理科第2分野をつなぐ実践を通じて—

筑波大学附属駒場中・高等学校 山本 智也

(3) 高等学校地理歴史科と探究との関連を図った単元開発

—個人の意思決定と社会(国家)の政策決定の相違に着目して—

追手門学院中高等学校 梶 哲

課題研究Ⅴ 児童生徒の主体性を発揮した学習機会を創造できる社会科教員をいかに養成するか

〔趣旨〕教員は現行学習指導要領において「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められ、さらに「令和の日本型教育」の実現を目指す中で、個別最適な学びと協働的学びの一体としての充実が強調されるようになってきました。その中で教員に対する研修で社会科の教師を新たな時代にあった形でどのように育成するのかということは重要な課題だと考えます。この分科会では大学及び大学院において社会科教師を育成するうえで研修をどのように考えるべきなのか、またこれまでどのように研修を行ってきたのか等を考えることで社会科教師育成における研修の意味を考えたいと思います。

コーディネーター 茨城大学 木村 勝彦

報告

- (1) 小学校教育実習における社会科の専門性育成に関する課題とその改善
—教育実習生の社会科観に着目して—

東京学芸大学附属竹早小学校 上野 敬弘

- (2) 学び続ける社会科教師を育成する研修のあり方
—長野県・新潟県の教育センターとの連携事業における社会科教員研修を中心として—

信州大学 田村 徳至

- (3) 持続的な社会科教師のアイデンティティ形成を目指す研修プログラムの構想
—大学と研修機関との連携を通して—

愛媛大学 井上 昌善

大会関連情報

大会参加の申込みについて ※本学会は免税事業者のため、インボイス登録番号はございません。

- (1) 大会参加費（不課税）

一般会員：3,000円（事前登録）／3,500円（当日受付）
学生・院生会員：2,500円（事前登録）／3,000円（当日受付）
非会員：3,500円（事前登録・当日受付）

- (2) 懇親会参加費（事前登録）：4,500円（税込10%）

会場：琉球大学生協北食堂

時間：17時30分～20時30分

※ 懇親会終了後に北食堂の手前「宜野湾口（北口）」方面に無料バスが停車しています。

（20時発）沖縄モノレールの那覇中心方面「古島駅」へ直行します。

「古島駅」から「那覇空港行き」に乗車して、宿泊先の最寄りの駅で下車してください。

※ 大会受付終了後に事務局からバス利用希望者の把握をします。

- (3) 弁当代 第1日目のみまたは第2日目のみ 800円（税込8%） 両日 1,600円（税込8%）

11月30日（土）は大学生協が開いています（11時30分～14時30分）。琉球大学東口・北口を出た所にはコンビニがあります。大きな飲食店はなく、東口の先の信号を右折して、ファミリーマートにかけて、小規模な飲食店がある程度です。また、12月1日（日）は大学生協の食堂は営業しておりません。

- (4) 大会参加の事前登録について

① 大会参加の事前登録および参加費の支払いは6月17日（月）からです。本学会HPの【大会参加（事前登録）申込フォーム】で事前登録・参加費の支払い（クレジットカード決済または銀行振り込み）を行ってください。事前登録と参加費支払いの両方を終えて参加申し込みが完了となります。

② 大会参加の事前登録申込終了後、「受付番号」が自動送信されます。また、お支払いにつ

いて「銀行振込」を選択された方はお振込先口座が自動送信メールにて届きます。自動送信メールが送られてこない場合は、株式会社コムラ（E-mail : jass74@kohmura.co.jp）までお問い合わせください。

③ 大会参加事前登録の締切は10月18日（金）です。

※事前参加申込受付期間終了後の参加キャンセルの手続きおよび返金是对応いたしかねます。

※参加申し込みを完了された方が大会当日参加できない場合は、大会実行委員会（E-mail : jass74ryukyu@gmail.com）に連絡をください。その場合は後日登録された住所に大会論文集をお送りします。

④ 事前登録をされる場合、緊急時の連絡先メールアドレスをご登録ください。全国大会の中止等、緊急時の連絡をいたします。

（5）発表論文集は、大会期間中の受付にて手渡し致します。

（6）発表について

- ① 自由研究発表の**発表時間は、発表20分、質疑応答10分の計30分**です。※時間厳守
- ② 当日発表資料を配布される場合、自由研究発表は70部以上、課題研究発表は100部以上をご用意の上、発表当日ご持参ください。なお、大会実行委員会宛での発表資料の送付はお断りいたします。また、発表資料が足りなくなった場合、実行委員会での増し刷りもお断りいたします。
- ③ 発表会場にはプロジェクター、スクリーンが装備されています。パソコンは装備されていませんので、各自ご準備ください。パワーポイントを使用して発表される方は、ノートパソコンにデータを保存してご持参ください。
- ④ 自由研究発表の会場は、両日ともに朝8時半には開場します。接続や動作のチェックは9時の開会までの間の時間か、各自の発表時間内をお願いします。
- ⑤ プロジェクターとの接続はHDMIケーブルのみ可能です。ノートパソコンにHDMI出力がない場合は、必要な変換アダプター等を各自ご準備ください。
- ⑥ 大会会場でのインターネット接続はできません。

（7）全国研究大会参加時の保育支援制度について

本学会では、全国研究大会参加時の保育費支援制度があります。制度規定および利用申請書は本学会のWeb サイト http://socialstudies.jp/ja/about_notice.html よりダウンロードし、学会事務局に直接お申し込みください。

（8）問い合わせ先

住所：〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地 琉球大学教育学部内

日本社会科教育学会第74回全国研究大会事務局（担当：北上田源）

E-mail : jass74ryukyu@gmail.com

※お問い合わせ等は、メールにてお願いいたします。

教育学部 教室配置図

教育学部

1階

初日午前 自由研究Ⅰ分科会7
2日目午前 自由研究Ⅱ分科会7
2日目午後 課題研究Ⅰ

初日午前 自由研究Ⅰ分科会9
2日目午前 自由研究Ⅱ分科会9
2日目午後 課題研究Ⅳ

初日午前 自由研究Ⅰ分科会8
2日目午前 自由研究Ⅱ分科会8
2日目午後 課題研究Ⅱ

初日午前 自由研究Ⅰ分科会10
初日夕方 総会
2日目午前 自由研究Ⅱ分科会10
2日目午後 課題研究Ⅲ

学会本部
(会議室)

入口

(教101)

(教102)

(教103)

(教104)

全体
受付

ピロティー

入口

現地事務局
(教108)

書籍販売
(教107)

(教106)

(教105)

初日午前 自由研究Ⅰ分科会5
2日目午前 自由研究Ⅰ分科会5

初日午前 自由研究Ⅰ分科会6
2日目午前 自由研究Ⅱ分科会6

技術教育棟

音楽教育棟

植木

教育実践棟

↓
駐車場
附属小

↓
駐車場

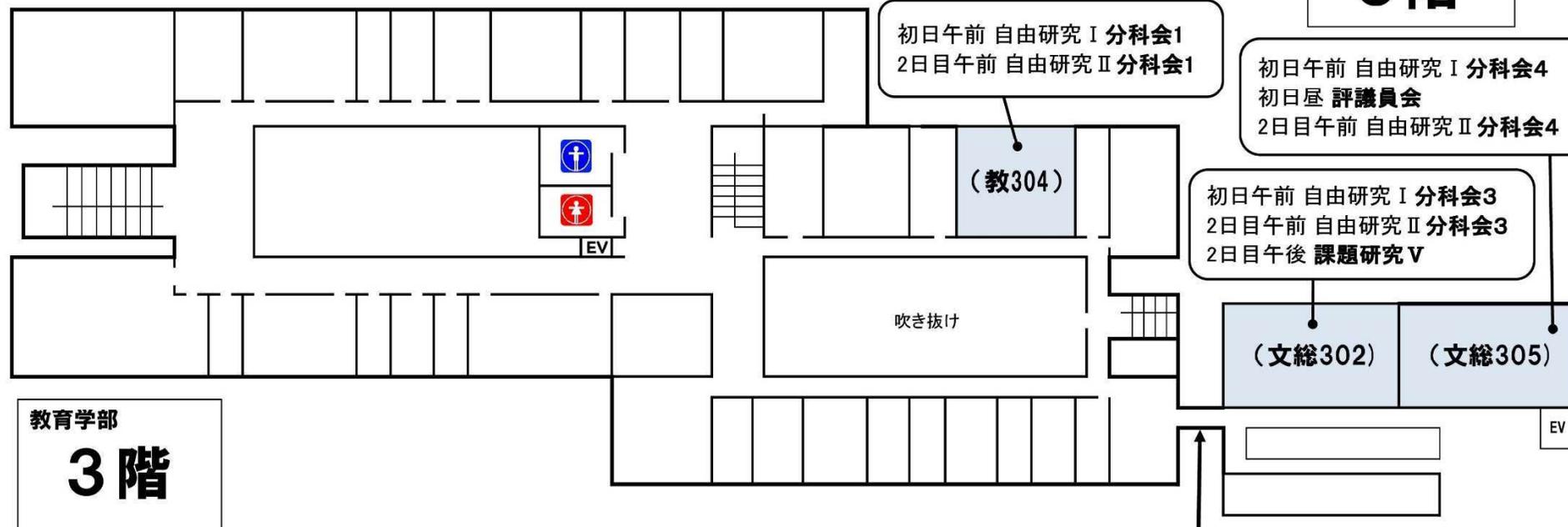
国際教育センター
(放送大学)

国教センター210

国教センター108

(教室見取り図は別頁)

教育学部 教室配置図



文系総合研究棟には、教育学部3階の渡り廊下を
通っていくことができます。

文系総合研究棟
3階



教育学部
(国際教育センター側から)



国際教育センター・放送大学
(教育学部側から)



国際教育センター・放送大学
(駐車場側から)



教育学部附属小学校

国際教育センター(放送大学) 教室配置図

